

2 授業づくり

前節①「学力を育む」では、しまね教育振興ビジョンに示された「学びの中核をなす学力」を中心に、「第2期しまねの学力育成推進プラン」がめざす、子どもが「できた・わかった・やってみたい」と実感できる学びの姿と、その実現に向けた5つの目標を整理した。本節②「授業づくり」では、これらの目標を学校の授業改善にどのように具体化するかを示し、教科等の特質を踏まえながら共通して取り組むべき方向性を明確にする。

1「基礎学力を育成する授業づくりの推進」、2「学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進」、3「幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進」、4「ICTを効果的に活用した授業づくりの推進」、5「多様な子どもの主体的な学びを支える授業づくりの推進」の順に、目標ごとに「めざす授業像」と「推進項目」を整理し、授業の設計・実践・振り返りにおいて重視すべき視点を示した。これにより、すべての児童生徒が必要な資質・能力を段階的かつ確実に身に付けられる授業づくりを進めるための実践的な手がかりの共有を図る。

1 基礎学力を育成する授業づくりの推進

(1) めざす授業像

次年度以降の学習や実生活において必要とされる基礎学力や、学びを組み立てる力を全ての児童生徒が確実に身に付けられる授業

(2) 推進項目

① 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

ア 単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通して

- ・学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。
- ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。
- ・子どもが考える場面と教師が教える場面を組み立てる。

イ 各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図る。

ウ 子ども一人一人の学習の成立をうながすための評価の視点をもつ。

エ 教師が自らの指導のねらいに応じて授業での子どもの学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。

オ 「各教科等の指導の重点」（作成：島根県教育委員会）から、授業改善のポイントを確認する。

② めあてと振り返りを大切にした授業の推進

ア 子どものもつ初期の概念との「ずれや隔たり」に着目し、「問い」の顕在化を図る。

イ 「問い」を課題につなげ、子どもがめあてや見通しをもちながら学習に取り組めるようにする。

- ・思考を揺さぶる発問
- ・個人の考えをもつ時間の確保
- ・一人一人に合った学び方や進め方の工夫

ウ めあてにそって振り返り、できるようになったことを自覚できるようにする。

※めあて、ふりかえりが形骸化しないことに留意する。

③ 学習する意義や必要性などを実感できる場面の設定

ア 教師の専門性を発揮し、子どもが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにする。

イ 学習内容と日常生活との関連付けを図り、学びの「自分事化」につなげる。

ウ 子どもの良い点や進歩の状況を積極的に評価し、児童が学習したことの意義や価値を実感できるようにする。

エ 子どもが自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように評価を行う。

④ 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善と改善状況の検証

[授業改善に向けたプロセス]

(1) 全教員が問題を解く

全教員が全国学力・学習状況調査の問題を解き、各問のポイントや求められる力を共有する。

(2) 結果分析と課題特定

自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、改善が必要な単元や重点課題を特定する。

(3) 改善内容と方針の協議

改善内容、児童生徒の具体的な変化の姿、具体的な評価(方法・時期など)を協議し、自校の取組方針を決定する。

(4) 授業の実施

協議で構想した改善内容を基に授業を実施する。

(5) 改善状況の検証

児童生徒の変容を具体的な評価問題等を用いて検証する。